

# 平成22年度 事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

学校法人 純真学園

## 目 次

I. はじめに	1
II. 法人の概要	
1. 学園設立の目的	2
2. 教育方針	2
3. 法人の沿革	3
4. 設置学校	
①在学者数	4
②入学者数	5
5. 役員に関する事	6
6. 教職員数に関する事	7
III. 事業の概要	
1. 東和大学	8
2. 純真短期大学	8
3. 埼玉純真短期大学	9
4. 純真高等学校	11
5. 純真中学校	12
6. 法人事務局	12

## I. はじめに

平成 22 年 10 月 29 日、文部科学省にて純真学園大学の設置認可書の交付を高等教育局長より受けました。学校法人純真学園にとって念願の 4 年制大学の開学が決定した瞬間であり、大学を設置するという責任の重さに、身が引き締まる思いがいたしました。それと同時に、いまから学生募集活動を開始して、はたして学生が集まるのだろうかという不安に駆られましたが、教職員一丸となって広報活動に取り組んだ結果、入学定員を上回る学生を迎え入れることができる見込みであります。これから 4 年後の完成年度を迎え、卒業生を社会に送り出すまでは 1 日たりとも気が抜けない日々が続きますが、教職員一同、教育・研究・地域貢献に真摯に取り組んでまいります。

また、設置している二つの短期大学においても大きく入学者数を増やすことができる見込みであります。これもまた、教職員全員の地道な広報活動が、結果となって表れてきたものであります。

純真高等学校においては、看護専攻科の募集再開もあり、入学定員を大幅に上回る新入生を確保できる見込みであります。

このように、学園が設置しているすべての学校において入学者が増加する見込みであることは、学園の教育に対する期待の表れでもあります。その期待に応えるため、学園としては、施設設備の充実を図り、教育環境の整備に注力し、学生・生徒・保護者の方々はもちろんのこと、地域の皆様からも信頼される学園を創ってまいります。

来年度は学園の創設者福田昌子の生誕 100 周年の節目の年でもあります。より一層の飛躍を目指してまいります。

## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 学園設立の目的

学校法人純真学園は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、人間及びその社会をよりよい方向に変革しうる人材の育成を目的とする。

### 2. 教育方針

学校法人純真学園は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を訓育するために、その教育方針として次の学園訓を掲げる。

「気 品」

「知 性」

「奉 仕」

- ①. 人を魅了し、良き師、良き友を得て、お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる、精神性の高さで行動すること。
- ②. 広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、物事の本質を見定め、考え、判断し、節度を持った行動をすること。
- ③. 多くの人に支えられていることに感謝し、利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる志に準じて行動すること。

### 3.法人の沿革

昭和 31 年 2 月 1 日 学校法人純真女子学園設立 純真女子高等学校設置

昭和 32 年 3 月 15 日 学校法人純真女子学園を学校法人福田学園に名称変更  
純真女子短期大学を設置

昭和 40 年 1 月 18 日 純真女子高等学校衛生看護科を設置

昭和 41 年 2 月 4 日 福田学園中学校を設置 純真女子短期大学附属幼稚園を設置

昭和 42 年 2 月 7 日 東亜共立大学を設置

昭和 42 年 7 月 4 日 東亜共立大学を東和大学に名称変更

昭和 43 年 7 月 4 日 純真女子高等学校を東和大学附属高等学校に名称変更  
福田学園中学校を東和大学附属中学校に名称変更

昭和 48 年 4 月 4 日 東和大学附属高等学校を東和大学附属東和高等学校に名称変更

昭和 54 年 3 月 23 日 東和大学附属昌平高等学校を設置

昭和 58 年 2 月 4 日 埼玉純真女子短期大学を設置

平成 13 年 11 月 20 日 純真女子短期大学附属幼稚園を廃止

平成 14 年 4 月 1 日 東和大学附属東和高等学校看護専攻科を設置

平成 17 年 12 月 5 日 純真女子短期大学こども学科を設置

平成 18 年 6 月 28 日 東和大学附属中学校募集停止

平成 18 年 7 月 24 日 東和大学募集停止

平成 19 年 4 月 1 日 純真女子短期大学を純真短期大学に名称変更

埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学に名称変更

東和大学附属東和高等学校を純真高等学校に名称変更

東和大学附属中学校を純真中学校に名称変更

東和大学附属昌平高等学校設置者を変更

平成 22 年 3 月 18 日 純真短期大学第三者評価適格認定

埼玉純真短期大学第三者評価適格認定

平成 22 年 10 月 29 日 純真学園大学を設置

#### 4. 設置学校

##### ①在学者数

(平成22年5月1日現在)

設置する学校	学部学科	入学定員	収容定員	在学者数	前年比増減
東和大学	工学部				
	建設工学科	- 名	0 名	1 名	▲ 1 名
	環境デザイン工学科	- 名	80 名	8 名	▲ 30 名
	情報学科	- 名	50 名	5 名	▲ 28 名
	医療電子工学科	- 名	30 名	2 名	▲ 12 名
小計		0 名	160 名	16 名	▲ 71 名
純真短期大学	こども学科	100 名	200 名	115 名	8 名
	食物栄養学科	80 名	160 名	114 名	10 名
小計		180 名	360 名	229 名	18 名
埼玉純真短期大学	こども学科	150 名	300 名	169 名	0 名
	乳幼児保育学科第二部	0 名	0 名	0 名	▲ 6 名
小計		150 名	300 名	169 名	▲ 6 名
純真高等学校	全日制課程普通科	190 名	570 名	414 名	64 名
	看護課	40 名	120 名	65 名	30 名
	看護専攻科	40 名	80 名	31 名	▲ 32 名
小計		270 名	770 名	510 名	62 名
純真中学校		0 名	0 名	0 名	0 名
合計		600 名	1,590 名	924 名	3 名

② 入学者数

(平成22年5月1現在)

設置する学校	学部学科	入学定員	収容定員	入学者数
東和大学	工学部			
	環境デザイン工学科	0名	80名	募集停止
	情報学科	0名	50名	募集停止
	医療電子工学科	0名	30名	募集停止
小計		0名	160名	-
純真短期大学	こども学科	100名	200名	61名
	食物栄養学科	80名	160名	56名
小計		180名	360名	117名
埼玉純真短期大学	こども学科	150名	300名	94名
	乳幼児保育学科第二部	0名	0名	募集停止
小計		150名	300名	94名
純真高等学校	全日制課程普通科	190名	570名	164名
	看護課	40名	120名	45名
	看護専攻科	40名	80名	0名
小計		270名	770名	209名
純真中学校		0名	0名	募集停止
合計		600名	1,590名	420名

5. 役員に関すること（平成22年5月1日現在）

① 理事（定数5～8名）

理事（現員6名）

理事長	福田庸之助
理事	若菜啓孝（東和大学学長）
理事	目瀬道弘（純真短期大学学長）
理事	藤田利久（埼玉純真短期大学学長）
理事	目野惣一（純真高等学校校長）
理事	吉田寛（公認会計士事務所代表）

② 監事（定数2～3名）

監事（現員2名）

監事	小鮎成忠（小鮎法律事務所弁護士）
監事	早川勉（早川勉税理士事務所代表）

③ 評議員（定数11～17名）

評議員（現員13名）

評議員	福田庸之助	評議員	都築廣久
評議員	若菜啓孝	評議員	萩尾土郎
評議員	目瀬道弘	評議員	石川節夫
評議員	藤田利久	評議員	池田博文
評議員	目野惣一	評議員	池田賢治
評議員	吉田寛	評議員	野中俊雄
評議員	吉田忠幸		

6. 教職員数に関すること(平成22年5月1日現在)

教育職員数

(単位:人)

所属	教授	准教授	講師	助教	助手	非常勤講師	計
東和大学	11	5	7	0	0	8	31
純真短期大学	16	2	3	8	6	14	49
埼玉純真短期大学	3	2	6	2	0	22	35
合計	30	9	16	10	6	44	115

(単位:人)

所属	教諭	講師	非常勤講師				計
純真高等学校	42	12	11				65

事務職員数

(単位:人)

所属	専任職員	嘱託職員	非常勤職員	パートタイマー			計
東和大学	8	2	0	2			12
純真短期大学	28	0	0	4			32
埼玉純真短期大学	9	1	0	0			10
純真高等学校	5	0	0	0			5
法人事務局	15	0	0	0			15
合計	65	3	0	6			74

### Ⅲ. 事業の概要

#### 1. 東和大学

平成21年度は、学生全員が卒業できるように様々な面からサポートし、取り組んでまいりましたが、全員卒業にはいたらず、16名の学生の留年が確定しました。このような中、東和大学の教員については、平成22年4月末でいったん退職していただくこととなりました。そして、全教員を平成23年3月末までの任期を定め、再雇用して、留年した16名の学生に対する授業等、卒業に向けた取り組みを実施してまいりました。結果としては、1名が退学し、12名の学生が卒業を迎えることができました。東和大学としては、残る3名の学生については、平成23年度以降も引き続き卒業に向け責任をもって対応してまいります。

#### 2. 純真短期大学

平成23年度の入学者数は170名で、約94%の定員充足率を達成し、平成22年度より大幅に向上できました。その要因として、就職氷河期と言われる厳しい状況下で他大学に比較して非常に高い就職率を達成できたこと、教職員による高校訪問等の入試広報活動を強化したこと、地元の子育て支援施設である「おおはし子どもプラザ」の運用を平成22年度から開始したことによる本学の知名度アップしたこと等が考えられます。また、最近の保育士の需要増加なども追い風になったと推定されます。平成24年度は定員充足率100%を目指し、さらなる入試広報活動を強化していく所存であります。

平成22年度から、「気品・知性・奉仕」という本学の建学の精神を体現し、社会人基礎力を身に付けさせるための「純真ゼミナール」の授業を開講しました。また学生サポーター制度やサービスマスター制度を積極的に推進し、地域に根差した実践的な教育活動を通じて地域貢献することができました。

教職員の自己研鑽のため、相互授業参観・相互評価を実施し、授業評価アンケートと授業改善、新しい質問項目による学生満足度調査と改善報告、公開授業、FD講演会等によるFD活動を継続・強化しました。また、平成21年度に引き続き、教育・研究・学内外への貢献等、教員の活動業績を総合的な切り口で数値化することを試行し、教員を総合的、客観的に評価しました。

就職状況については、本学全体での就職内定率は、平成21年度より約2%高い97%を達成できました。特にこども学科は2年連続で就職率100%でした。この要因は、最

近の保育士需要が増加したことに加えて、就職委員の教員やキャリアセンターの職員を中心に、就職活動の支援に取り組んできたことによるものと思われます。平成23年度以降も社会的な就職氷河期が続いていくものと推定されますが、更なるキャリア教育の充実を図り、教職員が一丸となって就職内定率100%を目指したいと考えております。

### 3. 埼玉純真短期大学

「学生数120名（入学定員）を確保する」とした「基本目標」は、平成23年度入学生127名で達成することができました。「教育」・「地域貢献」・「大学広報」の3重点活動も、ほぼ達成できました。以下その詳細について報告します。

#### 1) 教育推進活動の充実

##### A. 学事暦の見直し

- ①1年次の観察実習の実施と実習時期の変更を行う。
- ②大学祭（純真祭）開催時期を秋から春へ変更する。
- ③授業実施回数16回・授業フィードバックテストの実施・定期試験は原則設けない。

①について、「幼稚園実習」の実習時期を、1年生夏季休暇時期に1週間させたことにより、学生が授業で学ぶ意味を、より具体的に認識し、学習理解度も高まりました。

②について、純真祭を春に移動したことにより、準備の時間が短いとの不満もありましたが、従来も実習・就職で時間的な困難さはほぼ同様でした。春に実施したことにより、1年生の結束が深まり、2年生も秋には就職活動に絞った生活が可能となり、就職においても余裕をもった対応が可能となりました。連休前半であり、保護者会とキャンパス見学会も同時に開催したため、従来にない賑わいとなりました。

③について、平成23年度への試行として設けた16週でしたが、やはり1週の増加は大きく、補講の連続となりました。一方で小テスト実施の科目も増え、授業のフィードバックから学習効果は高まったように思えました。

##### B. 授業の方法の見直し

- ①授業を分かりやすい内容（具体的事例など）にし、興味をもって取り組ませる。
- ②黒板に書く時間はできる限り少なくし、パワーポイント等で行う。
- ③授業を活性化するために、授業後に学生に対して、小テストや質問を実施する。

①について、この点においては従前から行われてきたもので一応の成果はありますが、平成23年度以降、より積極的に行えるように予算も計上したいと思います。

②について、パワーポイントは、ほぼ全教員が使えますが、教員の意識と行動、そして科目特性や、教室設備により幾分差が見られました。

③について、小テストにおいては、教員の意識と科目特性により、教員間で大きく差がありました。また、出席回数・授業態度・試験評価などによる総合的成績評価の厳格化により、出席において不合格者の出現が危ぶまれましたので、全ての授業欠席者を毎日、全教職員に知らせ、学生への注意喚起に努めました。

### C. 専門性の習得

①保育者・教育者としての自信を持って就職するために、学生の専門的能力を高める。

②専門性をより確実なものとするために、現場の教員の招聘や現場での授業を行う。

③専門性の重要性についての認識を踏まえ、1年半のゼミでの専門性の獲得を図る。

この専門性を持たせるための教育においては、制度的には1ゼミ15名以内で実施することができましたが、現場との交流や現場教員の招聘には、予算が必要となってきましたので、実施において十分ではありませんでした。このため、平成23年度にその措置をし、学生の専門性を高められるような授業展開ができるようにしたいと思います。これらも、教員の意識と行動力の差や科目特性によって、大きく異なっていることが問題となっています。

### 2) 地域貢献活動の充実

①高等学校を重点的に、広く地域教育（含む：社会教育）機関に講師の派遣を行う。

②本学施設を、本学主催の公開講座に限らず、できるかぎり地域に開放する。

③教育者・保育者養成機関としての特性を生かして、地域支援を行う。

①について、高校はじめ地域からの依頼（業者依頼を含む）で行いましたが、教員の専門領域により、偏りが生じ、全ての教員が行うまでには到りませんでした。平成23年度は、本学からの高等学校への積極的な働きかけも必要であると考えます。

②について、地域への施設開放では、行田市校長会講習会や羽生市学び直し会議、羽生ふじ学園の実習などで、教室などの施設が利用されました。今後、一般市民へ、③の子育て支援や、学童支援などで開放されるような仕掛けも必要であると考えます。

③について、平成22年度はごく一部の教員が行えたに過ぎませんが、平成23年度

は、こどもの親を招いても危険のない施設設備リフォームをするなどして、教員の活動が活発になるように支援したいと思います。

### 3) 大学広報活動の充実

- ①地域貢献活動をはじめ本学の活動を新聞社などメディアに情報提供する。
- ②高校への出前講座の教員一覧表を配布して、近隣の高校を中心に出席授業を行う。
- ③広報誌（Junshin Newsletter）を発行（年5～6回）するとともに、本学公式サイトのリニューアルを行う。

①について、一時的な情報提供となって、継続的な情報提供を行うまでに到りませんでした。平成23年度は、広報とは何か、を広報担当に徹底させて実施したいと思います。

②について、教員の専門領域一覧表は作成しましたが、高校への配布にまでは到りませんでした。平成23年度は、積極的に行いたいと思います。そのため、平成23年度はある程度、行える体制（授業コマ数の見直しなど）を作りたいと思います。

③について、平成22年度は、広報誌を3回発行しましたが、平成23年度は、その配布先も含め、見直しを行い、本学広報としてのより効果的な「Junshin Newsletter」の発行をしたいと考えます。

## 4. 純真高等学校

平成22年度は進路指導において、特進コースより国公立大への合格、看護科医療進学コースより純真学園大学等の医療系大学への全員進学決定、看護5年一貫コースより国家試験全員合格などの成果を収めました。この成果をあげられたことによって、看護科については、平成23年度がラストイヤーとなる医療進学コース、そして平成22年度より再スタートした5年一貫コースに、弾みをつけることができました。

教育活動においては、普通科にて、学校設定科目CATの開始など、新たなる学習活動が始動しました。また全体では、ファインシステム（模試結果分析）の導入、学習指導の主体となる学力向上委員会の発足、特進コースに次ぐレベルの進学コース（仮称：平成24年度より公募）の設置準備、就職指導員やカウンセラーの継続導入、研究授業の開始や教職員の各研修への積極的な参加などが実施されました。

広報活動においては、全職員共通の目標である平成24年春の定員充足率100%超を目指し、中学・塾訪問、学校見学会、出席授業などを精力的に実施しました。その結果、

平成23年春は入学定員を充足するに足る受験者数を確保しました。(平成23年4月現在定員充足率は95%)

国際交流においては、JICA、JENESYS、県の国際交流課などの関わりにより、平成22年度もASEAN、中国、日本語サミット、韓国インターンシップなどの多くの学生が来校し、本校の生徒・教職員との交流は、活況を呈しました。

そのほか、保護者会とは、鳥山会長をはじめ各役員の方々のご協力を得て、生徒やクラブの諸活動に配慮いただき、交流会・体育祭・文化祭・ラブアースの清掃活動など緊密友好的な関係を継続中であります。

また、近隣中学の合唱コンクールでの純真ホールの貸与、若久支援学校との交流など、地域貢献にも努めてまいりました。

平成23年度以降に向けては、①学習指導の充実と進学実績の向上、②国際交流、部活動を含めた学校の活性化、③生活指導部、包括支援部を軸にした離・退学者の防止、④安定した受験生の確保などを目指して、魅力ある学校を作っていくための中・長期的な高校の方向性・ビジョンを確立すべく検討を行ってまいります。

## 5. 純真中学校

平成20年度を以って在校生全員卒業いたしました。現在、休学の措置をとっておりますが、文部科学省からの指導もあり、今後、廃校に向けて福岡県と協議してまいります。

## 6. 法人事務局

平成21年度末(平成22年3月末)、文部科学省に純真学園大学の設置認可申請書を提出し、受理していただくことができました。そして、本年度はその申請内容についての審査が本格的に始まりました。書面審査、面接審査から本学への実地調査を経て、平成22年10月、文部科学大臣より認可書を交付していただくことができました。これにより、純真学園大学の平成23年4月の開学が決定いたしました。就任予定の教員や設置準備室のメンバーを中心に募集要項の配布など広報活動を強化し、入学試験の準備には細心の注意を図りながら、取り組んでまいりました。多くの受験生に応募いただき、結果としては、入学定員を上回る入学者を確保することができました。今後とも、認可書にも記載してありますように、施設、設備、教員組織等に関する設置計画は、申請通り確実に履行してまいる所存です。認可された内容は、下記のとおりであります。

## 記

### 1) 名称、学部及び学科、入学定員、収容定員、位置

大学の名称	学部及び学科	入学定員	収容定員	位置
純真学園大学	保健医療学部	人	人	福岡県福岡市
	看護学科	80	320	
	放射線技術科学科	60	240	
	検査科学科	60	240	
	医療工学科	40	160	

### 2) 修業年限

4年

### 3) 開設時期、開設年次

平成23年4月1日、1年次

東和大学教員の処遇については、理事会と教授会との話し合いの中で、円満に解決いたしました。平成22年度末時点の係争中の裁判はありません。